



# 修二だより

令和3年度 特別号



京都市立修学院第二小学校

校長 河井 誠人

TEL. 075(781)5400

FAX. 075(791)5400



HP <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/syugakuindai2-s/>

## 令和3年度全国学力学習状況調査の結果

5月27日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

### 総合結果（国語・算数）

全国・京都府の平均と比べてみると、国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」では平均を上回る結果が見られました。「言語の特徴や使い方に関する事項」については京都府の平均を下回りました。算数「データの活用」「測定」では平均を上回り、「図形」の問題では平均を下回りました。その他の領域ではほぼ平均と同様の結果がみられました。授業のさらなる充実を図るとともに、帯学習の時間も活用し、より力を伸ばしていきたいと考えています。

### 国語科より



「読むこと」では「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」問題の正答率が平均より上回っており、国語科の学習での読み取りや、学校図書館を活用して読書活動の推進を行ってきたことがその一因と考えています。

その一方「書くこと」の「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成を考える」問題や「漢字を正しく使う」問題での正答率が平均を下回っており、国語科での授業の充実や、各教科でも記述する時間を設けるなどの取組を行っていきと考えています。

### 算数科より



「データの活用」では「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を書く」問題の正答率が平均を大きく上回っており、授業の中でいろいろな資料を見て比較したり、話し合ったりする活動を行ってきた成果だと考えています。

一方「直角三角形の面積を求める」「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める」のような、図形問題において平均を下回っており、帯学習の時間に既習事項や基本の問題の反復練習を行っていきと考えています。

### 児童質問紙調査から①

#### 家で自分で計画を立てて勉強していますか

家で計画的に勉強している児童の結果が向上しているという傾向があります。自主学習計画表をもたせ、取り組んだことを保護者の方にチェックしていただいたり、一人一人が自分で学習内容を工夫できるよう、支援したりすることで、児童が自分の力になるような学習を自分で考えて取り組むことができるようになってきました。小学校卒業後にも生きる力として、自学自習の力をつけていきたいと考えています。

□1. よくしている

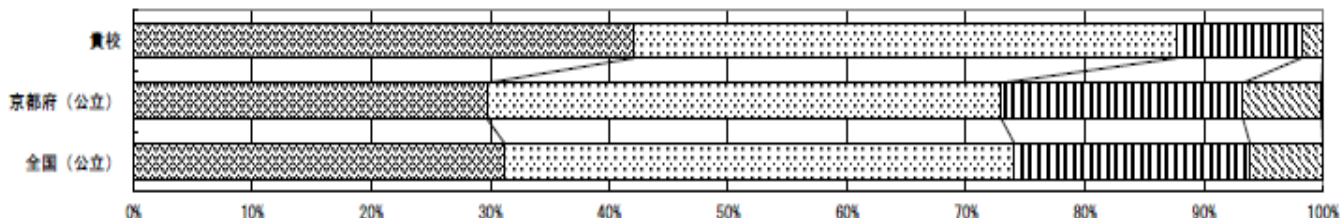
□2. ときどきしている

□3. あまりしていない

□4. 全くしていない

■その他

□無回答

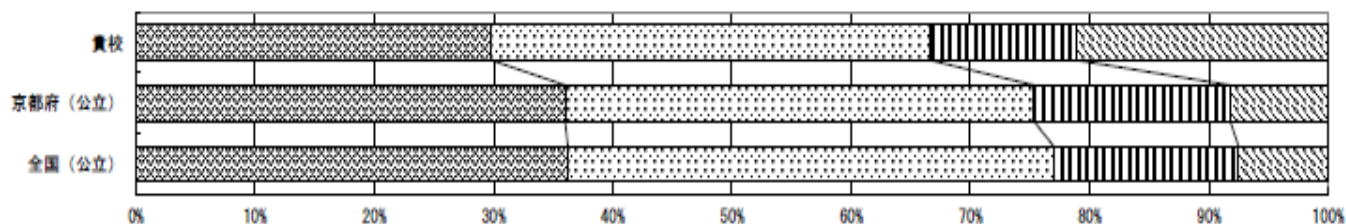


## 児童質問紙調査から②

自分には、よいところがあると思いますか。

当てはまる、またはどちらかという当てはまると感じている児童は66%で、国・京都府の平均を下回っています。得意なことは人それぞれであり、どの子にも必ず好きなことや個性があるはずです。自分の個性に自信をもち、お互いの違いや良さを認め合えるように指導をしていきたいと思っています。ご家庭でも日々の子どもの姿を認め、励ましをお願いいたします。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■ その他 □ 無回答



## 本校の成果と課題

本校では、「夢・努力・協働そして挑戦～主体的に学び、自ら考え行動する子どもの育成」という学校教育目標のもと、教職員一丸となって取組を進めています。

学力向上の取組に関しては、ジョイントプログラムの結果の情報共有や分析を行い、日々の指導方法の改善や、個に合った指導に努めています。また、基礎的基本的な学力を身に付けるために、昼の帯時間を活用し、計算練習、算数科の既習事項の復讐に取り組んでいます。また、ランチルーム兼第二図書館を開設し、読書活動にも力を入れています。

本校では、算数科を中心に、自ら問いを持ち課題に向かう力や、伝える力を育成するための授業研究を進めています。自分で課題を設定して解決したり、考えたことを相手に伝える方法を身に付けたりできるよう、取り組んでいます。その成果として、質問紙から、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」という質問で意識の高まりが感じられる結果になりました。

一方、課題として挙げられるのは、算数科における活用力や、国語科で既習漢字を使う力です。帯学習を活用し、基礎基本の力を大切にする取組を行い、子どもたちの力をつけていきたいです。また、自ら問いをもち、その問いを解決していきたいと意欲的に思えるような授業の工夫を引き続きしていきたいと考えています。そして、子どもたちが自分らしさに気づき、よりよく生きていくために必要な力を身に付けていけるよう、学校全体で取組をすすめていきます。

## 保護者の皆様

全国学力学習状況調査は、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決するためのものです。学力は、毎日の学びの地道な積み重ねにより定着していくものです。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力いただきますよう、お願いいたします。